

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年 2月25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200288		
法人名	ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター広島川内		
所在地	広島市安佐南区川内5丁目16番3号 (電話) 082-831-3631		
自己評価作成日	平成29年2月14日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action\\_kouhvou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=3490200288-00&PrefCd=34&VersionCd=022](http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200288-00&PrefCd=34&VersionCd=022)

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK		
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9		
訪問調査日	平成29年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご入居者が、その人らしくいつまでも穏やかに生活していただけるホームとして、利用者志向・ニーズを大切にするホームを目指している。  
訪問看護ステーションと提携をとりながら日常的な健康管理を行い医療が必要になった場合に適切な対応が取れるよう医療連携をとり実施している。  
地域住民との交流を深める為にイベントや保育園交流会等地域の方々と一緒にイベントを楽しみ地域に密着したグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームほほえみ川内は国道54号線より川を隔てた静かな住宅地にあります。近くの河川敷を利用したせせらぎ公園は入居者皆さんの散歩コースとされ、川辺の四季を感じながら散歩を楽しまれています。ホームでは利用者の方々を「お客様」と呼び、おひとりお一人に優しい声掛けがされ、リビングを中心とした室内では、職員のリードでかるたやゲーム、懐メロの合唱等笑い声の絶えない支援が続けられています。職員は常に利用者の残存機能や能力維持に配慮し、季節感のある貼り絵を合作したりパズルに取り組み、合作された貼り絵は利用者の笑顔のスナップ写真を織り込みながら廊下の壁面や階段の踊り場に掲示され和みのある雰囲気となっています。

ニチケアセンター広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの理念「一家族 人に優しく 自分に厳しく」に提示。職員にも理念の理解を徹底している。	毎朝の引継ぎ時に社是の唱和をして職員間の協調を図っている。各フロアではホーム理念「一家族 人に優しく 自分に厳しく」と明示し、フロア年間目標を加えて掲示している。	社是の唱和に加えて、ホーム理念やフロア目標も唱和されて、日々の支援の活力にされることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご近所様にはお会いしたときの挨拶等は心がけている。買い物等も近隣等で行い、秋祭り、デイのイベント等、機会があれば交流の場に出かけている。	近隣の保育園との交流が続けられ、園児が訪れて合唱や肩たたきをしたり、利用者が保育園を訪問することもある。秋祭りや地域のイベントにも参加している。おやつ等の買い物には利用者の外出を兼ねて近隣の店に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症に関してのご相談等があれば相談等をお受けしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様、地域包括支援センターの職員様等のご意見を聞き、改善に向けて取り組んでいる。	運営推進会議には利用者代表、利用者家族、地域包括センターよりの参加があり、会社代表、ホーム管理者で行われ、ホームの現状や行事の計画、報告等を議題としてご意見を頂き、支援に繋げている。	運営推進会議に地域代表、民生委員、老人会や女性会の代表に案内され、又派出所や社協等の参加を求められて、より広い意見を求められることが期待されます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営上不安な点等が出てきたら、すぐに市介護保険課事業者指導係りに問い合わせ、不安な点不明な点は解消するようにしている。	運営上の法的な疑問は常に市介護保険課に問い合わせをして、正確に処理するように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は夜間の戸締りを除き施錠はしていない。身体拘束に関しては、ご入居者の緊急やむを得ないなどの状態がある場合はご家族に説明、同意を交わし拘束を行うようにしている。但し、検討会を定期的に行い、解除できるように努めている。	身体拘束をしないケアについて職員は年間社内研修で確認し理解して支援している。午後9時より翌朝6時までの夜間は防犯上玄関は施錠しているが昼間は自由に出入りが出来る。出かけられる利用者には職員が見守り同行をしている。緊急やむを得ない場合は同意書を交わして拘束を行う方針はあるが現状では行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホーム会議を利用しての勉強会。社内での虐待防止キャンペーンの開催。ポスターの提示を行っている。		

ニチケアセンター広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフの周知徹底に取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時は説明の場を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設けたり、その都度、管理者・職員に対して表せる機会を作るように配慮している。	面会に来られたご家族には気軽に意見を頂けるよう職員が配慮している。運営推進会議でご家族から述べられた意見はホーム会議で検討しケアに反映している。本社より利用者家族にアンケートを送付し、ホーム別に結果報告がされケアの質の向上につとめている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度、職員に対して表せる機会を作るように配慮している。ホーム会議の開催を利用している。	職員はホーム会議で自由に意見を述べ、利用者本位のサービスが出来るよう検討し支援に繋げている。記録簿の記入方法やシフトの割り振り等職員の意見を取り纏めて管理者は実施したり、運営会社に提案することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内でカラダと心の健康づくりとして相談、カウンセリングを行なえる相談窓口を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外の研修については広く情報提供している。新卒採用者にはカリキュラムに沿って育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括イキイキネットに参加して、情報交換を行っている。		

ニチイケアセンター広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に面談等の調査にて実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に面談等の調査にて実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプラン等に入れ実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の意向、立場で考え、介護を行うように努めている。そばにより添い会話やスキンシップを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	行事等の参加を促したり、面会時や必要に応じ、近況報告をさせていただきながら、ご本人様のことを考える場を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会は積極的に促している。今まで使用していた馴染みの品(家具、作品、写真)等も持ってきていただくなど、居心地のよい環境づくりに努めている。	男性利用者のスポーツジムでの友人が再三訪れて部屋で楽しそうに歓談されている。入居前からのマッサージ師が来所され1対1の関係が続いている。家族より、気軽に訪問できるホームであると記されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立せず、仲良く関わりが生まれる機会、工夫をする。(共同作業や会話)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もできる限りの助言、相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向を優先しつつ、困難な場合は(転倒の危険性が高い時等)ご家族と相談し安全な対策を図っている。	日常生活で職員は家族のようにできるだけ寄り添って話し、フロアーリーダーが個人個人の意向を纏め、家族の意向を加えながら共有して支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に面談調査や定期的な調査またはご家族様に聞き取りを行って、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子観察、健康チェック、記録等の強化職員間の連携に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスを行い、問題提起に努めている。	1か月に1回のモニタリングを行い、ミーティングやホーム会議で意見を出し合い、医師の意見を予め頂き、家族の意向を基にケアマネが本人本位の計画書を作成している。見直しは6か月～1年で行い特変がある時はその都度担当者会議を開いて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、管理日誌、受診記録等で情報を共有し、介護計画の見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じ、主治医やご家族、職員等で話し合い現状に即した支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	定期的に保育園との交流や地域の方を招いている。地域の方を招いて行事等行っている。消防署協力の下、定期的な防火訓練を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前必ず、家族等の希望とかかりつけ医の確認、提携の説明をしている。緊急時にも提携医から連絡、指示を受けられる関係である。	契約時に家族の希望を主にして説明をし、殆どの方が提携医をかかりつけ医とされている。提携医より月2回の往診と24時間対応で指示を受けることが出来ている。眼科等の専門科は家族で対応してもらっている。皮膚科、歯科の往診は定期的になされている。	

ニチケアセンター広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時に提携の看護職員(隔週)へ入居者様の近況報告、または定期的に訪問看護ステーションの看護職員(週/1回)へ近況報告を行っている。必要に応じて夜間帯・緊急時に訪問看護職員による必要な支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される病院の相談員と連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様、ご家族様の希望を聞き、ホームの現状を踏まえ提携医と訪問看護との提携を密にし、ホームとしてできる限りの対応をする方針ではある。重度化、終末期の状況、変化によって、ご家族、提携医、訪問看護と今後の方針を話し合い決めるようにしている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意書を取り交わしている。重篤になられた場合は再度家族との意思確認をおこない、提携医、訪問看護ステーションとの連携をし、利用者の尊厳を重視した支援体制を整えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルに沿って研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	職員には広域避難場所の周知、各個人の防災グッズの周知徹底している。避難訓練は定期的に行っている。非常食等を常時、備えている。	避難訓練は年2回定期的に行われ、1回は運営推進会議を兼ね、夜間想定で消防署立ち合いで行われている。非常食等常時備蓄している。	災害対策について、運営推進会議等で検討され、今後において、地域の方との相互連携に発展されることが期待されます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応について気になることがあれば、管理者により注意を促したり、ホーム会議等で勉強会を行ったりしている。個人情報の取り扱いに関しても徹底している。	若い職員が多数なので、日常の声掛けについては管理者が主となって育成に当たっている。ホーム会議の議題でも相互助言をしあっている。個人情報関係の書類は施錠のある保管庫で保持されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お客様に合わせて、言葉かけや働きかけを工夫している。選択肢を提供しご本人様が選択できるような対応もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常日頃、お客様のペースに合わせてるように指導している。		

ニチケアセンター広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみ、おしゃれに関してはできる限りの配慮、支援している。理容・美容に関しては訪問美容を利用している。毛染め、顔そり、カット、パーマの対応は可能である。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	何か食べたいか意向を聞き、メニュー等に取り入れるように努めている。お膳を並べたり、お皿を拭いたり、個々のできる範囲で職員と一緒に頑張っている。	大まかなメニューは法人よりの指示があり、利用者の希望を織り込みながら、ホーム各フロアのキッチンで調理している。配膳や後片付けを手伝われる方もある。季節のおやつや手ごねうどん作りを利用者と職員と一緒に頑張っている。	外出支援を兼ねた外食のイベント等を家族の協力を求めている実施されることが期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	介護記録により日々の管理は行っている。食事量や水分量が少ないなどは、その都度、提携医に相談、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食前に口腔体操をしている。毎食後に口腔ケアを促し介助している。又、訪問歯科を利用して定期的な検診等も行っている。義歯の方は夜間ポリドント等の洗浄剤にて洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	介護記録を活用し、排泄パターンの把握に努めパットやリハビリパンツを使用せず、トイレでの排泄を心掛けてケアしている。	介護記録により排泄パターンを把握し、トイレ誘導が行われ、昼間は布パンツの方もいる。職員が親しく寄り添うことで、意思表示が明確になれば、失禁が少なくなった利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便通の良くなるよう献立の工夫や飲み物等の工夫をしている。また、散歩等で体を動かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時は利用者様の意向を確認した上で行なっている。	週2回入浴してもらっているが、入浴を拒む方には工夫をして成るだけ入浴してもらっている。入浴されない時は足湯や清拭で対応している。同性介助の希望には応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様個人のペースに合わせて支援するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報を個人ファイルに薬の目的・副作用・用法・用途についていつでも見ることができる状態にしている。薬が変わった時には症状の変化の確認に努めている。		

ニチケアセンター広島川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	生活歴、趣味、性格等を活かした役割、楽しみごとを提供し、支援をして行く事に努めている。	/	
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	希望に応じて散歩に出掛けている。散歩できない利用者は庭・バルコニーにて日光浴等行っている。	季節の良い時は近くのせせらぎ公園に散歩に出かけている。夕方の帰宅願望の時間には少しの時間外気に触れて頂く事をしている。遠くへのドライブや花見などには最近出かけていないので、今後遠出の企画をする予定であると述べられた。	平凡な日常生活に変化や外食の楽しみを持っていただく為、家族の協力を得ながら回転すしやお花見、紅葉狩り等の企画をされる事が期待されます。
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	おこづかい金としてホームでお預かりしているが、買い物時はお金をご自身に持って頂く等の支援をしている。レジにて精算できるかたにはしただいていただく。(見守りのもと)	/	
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	希望があれば支援している。	/	
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家庭的な雰囲気になるよう心がけている。又、季節の行事に合わせて、飾り物をする工夫をしている。	玄関は親しみやすい手作りの置物が飾られ、来所者を和みで迎えている。共用の廊下や階段の踊り場には利用者と職員の合作による季節を表現した飾り物が展示され、賑わいのある温かさが感じられる。広く繋がりリビングのテーブルでは若い職員のリードで利用者5～6人の笑顔の輪があり、カルタ取りを楽しんでいた。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングと廊下にソファをおいて工夫している。時には和室で食事をする事もある。	/	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	以前使っておられた家具等持って頂くよう促したり、作品や写真等を持ってきて頂いて、ご本人様の居場所であるという意識を持って頂くよう工夫している。	個室は壁面に埋め込みのロッカーがあり、衣類や雑貨の整理が出来部屋が広く利用できている。馴染みの文机や椅子、チェスト等が持ち込まれ、ご自分の好みで配置されている。手作りの小物や切り絵等を飾り居心地の良い自室にされている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	認知症の方の対応をホーム会議等を利用して勉強し、混乱や失敗が起こらないよう、未然に気づき、対応するようにしている。	/	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンター広島川内

作成日 平成29年 3月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13 35	災害対策計画を作成する時、地域のかたの支援をお願いします。	定期的な訓練を行う時、地域の方も参加していただく。	訓練時、ご協力お願いできる所を3ヶ所以上お願いします。	H30年2月
2	3 4	運営推進会議の参加者少ない。	老人会、婦人会等、地域の方に参加していただき、ご意見をいただく。	運営推進会議にミニ懇談会のようにプラスαで意義のある会議にしていく。	H30年2月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。